

第1回検討作業 まとめ

- (事務局より) ● 検討課題：リリア・美術館・西公園を文化芸術拠点として整備。どのようにすれば相乗効果が生まれ、最大限の効果を発揮できるか検討。
- 美術館施設与件：2階でリリオと接続（2階がメインの入口）
2階：アトリウム（650㎡）展示室1（540㎡）展示室2（225㎡）レストラン、多目的室
1階：展示ホール（310㎡）収蔵庫、事務室、機械室等

A. ターゲットと利用シーン

① 駅前の大規模公園という貴重な立地を生かした活用

- 都心エリアで駅前にこれほどの公園があるのは原宿を除き川口だけ

③ 小中高生と保護者がいっしょに楽しめる

- 小学生が行きたいと思うイベントに期待
- 小中学生、高校生を対象した施設づくり
- 保護者と一緒に楽しめる仕掛けの必要性

② 気軽に美術と触れ合い、くつろぎ、楽しめる

- リリアと西公園に集まる親子連れが気軽に美術と触れ合える
- リリアに来た人も気軽に美術館にきてくつろげる、楽しめる

④ 仕事帰りに寄りたくなる美術館

- 川口は「いってきます、ただいま」の街。「ただいま」と帰ってきた時に寄って帰ろうと思う拠点に。
- 仕事帰りの人が寄ることができる時間設定（リリア開館時間：22時）

B. さまざまなプログラム展開

① 次世代が育つ、次世代が集まる

- 子どもは無料など、教育に貢献
- 次世代のキュレーターが育つ
- アートによる幼児教育

③ 伝統文化のコアが感じられる

- 和歌の映像化など

② 子どもが保護者を連れてくる仕掛け

例：金沢21世紀美術館（学校での無料チケット配布）

④ ビジネスとの連携

- デザインシンキング、アート発想でイノベーションを支援

C. 運営のあり方

① 行政の枠を超えた美術館運営の必要性

- 美術館運営の知識、能力を持つ館長の起用
- 名物館長
- 様々な課題や経済への波及効果を考えられる人材
- 外部人材、若手の活用
- 美術館にふさわしい人員体制検討の必要性

② 美術館にふさわしい接遇

- 職員の制服やマナー

③ 最新技術を活用した来館者接遇・案内

- AIの音声ガイド
- 自動運転の車いす
- ロボットによる解説

④ 来館者に快適な環境

- 休憩スペースの設置
- 高齢者への配慮

⑤ 食事のできるカフェ・レストラン 帰りに寄りたくなるショップ

川口市文化芸術拠点

新美術館

総合文化センター
リリア

川口西公園

リリアパーク

D. イベント・情報発信

① ネーミングと多彩な展開

- 美術館・リリア・公園を総称する名前が重要
- リリアの知名度を生かす。
- キャラクターやテーマソングなども検討

② 川口の人・まちと連携したイベント

- ビールフェスタのような大人向けイベント（例：バーボンで有名な方がいる商店街との連携など）
- お祭り気分でまち全体で美術を楽しむ（市民それぞれがお宝を“出展”）

F. 文化芸術拠点としての3施設間の連携

① まち全体を音楽と美術で彩る“音楽祭”

例：丸の内「ラ・フォル・ジュルネ東京2023」

- クラシック音楽と多彩なイベントが融合した音楽祭
- ホールでの有料コンサートに加えて無料のエリアコンサートを展開
- 三菱一号館美術館では関連したテーマの美術を紹介
- 毎年GW3日間開催、2005年～2019年までに延べ866万人が来場

G. まちづくりや地域との連携

E. 施設活用の新しい可能性

① 美術館の雰囲気や付加価値とした企業利用

- 美術館スポンサー企業は優先貸出可能など
- 美術館展示室の会議室利用への提供

② 公園との回遊性創出の必要性

- 公園やリリアを利用する家族連れや子どもの回遊を促進する工夫の必要性
- 環境演出（装飾・音楽等）による美術館への誘導
- 美術館でのあそびエリアの設定、音を楽しむ遊具の設置

③ エリアの「雰囲気づくり」

- 公園を含めた雰囲気づくりの重要性
- なんとなく居心地の良い雰囲気
- 川口の街に波及する雰囲気

⑥ 川口らしさを実感できる拠点

- 川口のイメージとしての「鋳物」や「植木」
- 市民や子どもたちが「川口らしさ」が実感できる

⑤ 夜のにぎわいづくり